



「おれおれ詐欺」「架空請求詐欺」など特殊詐欺の被害が後を絶たない。ターゲットになっているのは主に高齢者。県警は「怪しいと思ったらすぐに電話を切ってほしい」と呼び掛けています。

①県内で昨年確認した特殊詐欺の被害は何件？ そのうち65歳以上の高齢者が被害になっていたのは何件ですか？

118件

このうち高齢者は59件

②詐欺グループが持ち掛けてくる偽りのストーリーにはどんなものがありますか？ また、犯人はどんな職業をかたって電話してきますか？

「個人情報が出た」「利用料金が未納」「新型コロナ対策で助成金が出る」

行政や金融機関の職員、弁護士、警察官といった「信用のある職業」

③県が4月1日に施行した特殊詐欺等被害防止条例はどんな内容？

金融機関やコンビニなどに積極的な声掛けを求め、詐欺グループのアジトを県内につくらせない対策を推進。被害者のカウンセリングなど精神的ケアも盛り込んでいる。



電話で話せば話せば、

「個人情報が出た」「利用料金が未納」「新型コロナ対策で助成金が出る」詐欺グループは偽りのストーリーを持ち掛け、あの手この手で迫っている。最初は種やかな口調だが、途中から「逮捕」「訴訟」といった言葉で不安をあおることも多い。約9千円の被害に遭った女性は約5カ月間、受け取り役の男に繰り返し現金を渡していた。刑事裁判での検察側の説明によると、女性は逮捕と聞いて生きた心地がしなかった。絶望的な気持ちになったという。

「個人情報が漏れた」「利用料金が未納」「新型コロナ対策で助成金が出る」詐欺グループは偽りのストーリーを持ち掛け、あの手この手で迫っている。最初は種やかな口調だが、途中から「逮捕」「訴訟」といった言葉で不安をあおることも多い。約9千円の被害に遭った女性は約5カ月間、受け取り役の男に繰り返し現金を渡していた。刑事裁判での検察側の説明によると、女性は逮捕と聞いて生きた心地がしなかった。絶望的な気持ちになったという。

防げ！ 特殊詐欺

1面から続く

特殊詐欺のターゲットになっているのは主に高齢者だ。

県警によると、県内で昨年確認した被害118件のうち、半数の59件は65歳以上が被害者になっていた。今年に入ってから、大分市の80代女性が県内過去最高額の約9千万円を架空請求でだまし取られたことが発覚。2月中旬には同市

狙われる高齢者

話せば話すほど引き込まれる 「怪しい電話は切って」



高齢者らを狙った特殊詐欺が相次いでいる。言葉巧みに預貯金額を聞き出され、だまし取られるケースも多い(写真はイメージ)＝撮影・元木隆介

巧みに引き込まれてしまう。県警は「相手はだましのプロ集団。怪しいと思ったら、すぐに電話を切ってほしい」と呼び掛ける。

「信用のある職業」行政や金融機関の職員、

弁護士、警察官といった「信用のある職業」をかたるのも特徴だ。「周りに言わないで」「私たちが対応するから」と何度もくきを刺し、犯行の発覚を遅らせようとする。被害者が気付いたときには既に多額の財産が失われている。精神的なショックも大きく、県警安全・安心まちづくり推進室の大熊建國室長(51)は「自殺を試みたり、家庭が崩壊する恐れもある」と懸念を述べている。

れもある」と説明する。他人を信用できなくなつて外出を控えるなど、それまでの生活が激変することも珍しくない。だまされたことを恥じたり、家族に責められることを恐れている人もいるという。

県条例を生かさそう
官民一体で歯止めをかけるため、県は1日、特殊詐欺等被害防止条例を施行した。特殊詐欺に特化した条例は熊本、埼玉などに続き5県目だ。

金融機関やコンビニなどに対して客への積極的な声掛けを求め、詐欺グループのアジトを県内につくらせない対策を推進。被害者のカウンセリングなど精神的ケアも盛り込んだ。条例を生かせるかは県民一人一人の意識にかかっている。大熊室長は「警察の力だけでは限界がある。相談できる家族や近隣住民がいるだけで防げるケースもある。被害撲滅には地域の力が必要」と訴えている。

（羽山草平）
15回続き

2020年4月26日付大分合同新聞23面

④もし、あなたの家に怪しい電話がかかってきたら、どんな対応をしますか？ 話し合ってみましょう。

怪しいと思ったらすぐに電話を切る、普段から家族や近隣同士が連絡を取り合い相談しやすい環境をつくる、相手の会社名をネットや番号案内(104)で調べる、心当たりのない請求に応じない、通帳やカードを人に渡さないなど家族で話し合みましょう。